

令和6年度 教育課程について (届)

このことについて、江戸川区立学校の管理運営に関する規則に基づき、下記のとおりお届けします。

記

1 教育方針 (魅力ある学校づくり)

(1) 学校の教育目標

- 東京都教育委員会、江戸川区教育委員会の教育目標を踏まえ、人権尊重精神に基づき、自ら進んで取り組み、広い視野と地域社会の一員としての自覚をもち、知性と感性に富み、互いに信頼・協働し、健康で心豊かな児童を育成するため、次の教育目標を掲げる。
 - ・じょうぶな子
 - ・思いやりのある子
 - ・考える子
 - ・やりぬく子

(2) 学校の教育目標を達成するための基本方針

すべての教育活動の基盤に人権教育を位置付け、以下のような方針のもとに教育活動を展開する。

- 確かな学力の育成
 - ・学力向上アクションプランに基づき、基礎学力の確実な定着をめざす。
 - ・自ら進んで、見通しをもってねばり強く学習に取り組み、自分の学びを振り返って次につなげる学び、友だちとかかわりながら考えを深めたり表現したりする学びの充実を進める。
 - ・就学前教育を踏まえ、中学校を見据えた教育活動を展開する。
- 健やかな身体の育成
 - ・自ら進んで体力を高めていこうとする意欲、実践力の向上を図る。
 - ・保健指導や食育などを通して、健康な生活を実現しようとする態度を育む。
 - ・健やかな身体の育成のための教育環境の整備・充実に努める。
- 豊かな心の育成
 - ・主体性、自主性、協調性を伸ばし、自ら進んで取り組む児童の育成をめざす。
 - ・道徳教育の充実を図るなどして、自分のことも相手のことも大切にする教育を推進する。
 - ・児童の体験をより豊かなものにするとともに、読書活動の充実、豊かな感性や情操を育む教育を推進する。
- 健全育成の推進
 - ・基本的生活習慣の育成、明るく活気のある学校風土の醸成に努める。
 - ・不登校の未然防止や対応の充実、いじめ防止の徹底、情報モラルの育成などを進める。
 - ・自分の身体や命を自分で守ることのできる力の育成を進める。
- 特別支援教育の推進
 - ・おおぞら学級(知的)の指導の充実を図る。
 - ・すべての児童の自立と社会参加、共生をめざし、個に応じた指導を充実するとともに、交流・共同学習、障害理解にかかわる教育を推進する。
- 家庭・地域との連携の推進
 - ・地域の教育力を積極的に活用するとともに、家庭との連携・支援を推進する。

2 指導の重点

(1) 確かな学力の育成

- 基礎学力の向上を図るため、学力向上アクションプランに基づき、組織的・計画的に学力向上の取組を推進する。3年から6年の算数においてよりきめ細やかな指導を展開するため習熟度別指導を実施する。また5、6年の社会、理科などにおいて教科担任制を進めるとともに、各学年の一部の教科、単元などにおいて教員間の交換授業を実施する。
区独自の学力調査や全国学力・学習状況調査、学校独自のレディネステストなどをもとに、児童の実態をていねいに把握し、課題の明確化、授業改善の推進に取り組む。学力の層に応じた目標を設定して、電子ドリルを活用するなどした全校一斉朝学習、放課後補習教室、教職員によるステップアップ学習などを実施する。
- 主体的・対話的で深い学び、個別最適な学びと協働的な学びの実現をめざし、読書科などにおいて図書資料を活用した調べる学習を充実させるとともに、各教科などで1人1台端末のより一層の活用を進める。また、思考チャートを使うなどした思考力を高める学習や体験的な学習、プログラミング的思考を育む活動などを積極的に取り入れるとともに、見通しをもってねばり強く取り組み、自分の学習を振り返って次の学習につなげる学び、友だちとかかわりながら考えを深めたり、表現したりする学びの充実を進める。
ALTを効果的に活用し、外国語及び外国語活動の授業の一層の充実を進める。
- 幼稚園・保育園、中学校との連携を推進するため、入学前保護者会を開催して家庭と連携・協力した指導を展開するなど、円滑な接続と基礎・基本の土台の構築をめざした小学校入学期及び1、2年時の指導の充実を図る。また、6年を中心に中学校での教育内容を視野に入れた活動を推進したり、交流の機会を設けたりする。
- 家庭学習の充実を図るため、保護者へのはたらきかけを強化し、また、家庭学習にかかわる学年間の共通理解をより密にしていく。

(2) 健やかな身体の育成

- 主体的な体力向上を促進するため、目標をもって体力調査に臨ませるとともに、児童が自分の体力の状況を知り、自ら力を高めようとする意欲の向上を図る。また、体育の授業において真に運動に取り組んでいる時間の比重を高めることに努める。さらに、毎週30分間の全校運動遊びを実施するとともに、なわとびをはじめ多様な運動に計画的に取り組む元気アップタイムを設定する。こうした授業、活動に1人1台端末を効果的に活用していく。
- 保健指導、食育を推進するため、身体計測の機会を活用した保健指導、体育科保健分野での指導、歯の健康にかかわる取組の充実などを通して、自らの身体、健康に関心を持ち、健康な生活を実現していこうとする実践的な態度を育てる。また、熱中症予防を含め健康管理、安全管理を徹底する。多彩な給食の提供、マナー給食の実施など給食の時間を中心として食育を推進し、食に関する関心を高め、豊かな食生活を実現していこうとする態度を養う。またアレルギー事故の防止を徹底する。
- 健やかな身体を育む環境の充実をめざし、校内環境の改善・充実、学校隣接の公園を活用した遊び場の拡充、異学年交流を取り入れた運動の実施などを展開する。

(3) 豊かな心の育成

- 自主的・主体的な姿勢の育成をめざし、委員会活動や学級での係・当番活動を充実させるとともに、1年と6年、2年と4年、3年と5年の組み合わせを基本とした異学年交流を推進する。また、幼稚園、保育園との直接交流の推進や、中学校との連携強化を進める。
- 自然や文化に触れる体験活動の充実をめざし、5年で磐梯へのウインタースクール、6年で日光移動教室を実施する。また、江戸川、葛西にかかわる多様なゲストティーチャーを招いた活動を展開し、ふるさとを愛する心を育む。
- 読書活動を充実するため、週1回の朝読書や30分間の休み時間での読書活動、保護者などのボランティアによる読み聞かせの実施、学校図書館開館時間の拡充、公共図書館連携モデル校としての取組との連携などを推進する。
- 道徳教育の充実を図るため、道徳授業地区公開講座の実施や特別の教科 道徳の授業の質の向上、道徳の学年交換授業などを試み、学年の実態に即して、教員間の連携・協働による授業を進め、自分のことも相手のことも大切にすゝる気持ち、実践力を高める。
家庭や地域などとの連携を図りつつ、すべての教育活動において、江戸川区子どもの権利条約を踏まえ、多様な文化、生き方、価値観などを認め、尊重し、さまざまな人と共に生きる態度、心を培

う。また、困ったときには困ったと言える環境の充実を進める。

○音楽に対する感性を育むとともに、豊かな情操を育成するため、音楽会を実施する。

(4) 健全育成の推進

○基本的な生活習慣の育成を推進するため、「二葛西小の約束」を児童、保護者にていねいに説明したり働きかけたりしていく。また、すべての児童が毎朝校門などであいさつ運動を行うとともに、児童代表委員会の活動にも位置付け、明るく活気のある学校風土の醸成を図る。

○不登校、いじめなどの未然防止、対応の徹底を図るため、不登校対策委員会、いじめ対策委員会の取組の充実などを図り、より組織的で計画的な取組を進める。また、いじめ防止、児童虐待防止などを推進するため、hyper-QUの活用、児童アンケートの実施とそれに基づく指導を進める。さらに、校内別室指導や一人一台端末を活用するなどした居場所づくり、学習保障などに努める。加えて、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの活用、児童相談所などとの連携をより一層進め、教育相談機能の強化を図る。

○入学期の指導の充実を図るため、入学期の保護者を対象としたはたらきかけを積極的に推進するなどして、家庭での取組の充実、家庭との連携強化を推進する。

○防災、防犯などにかかわる教育を推進するため、児童に、自分の身体や命を自分で守ることができる力の育成をめざし、さまざまな災害の発生を想定した多様な訓練を中心とした防災教育、警察などと連携した薬物乱用防止教室やセーフティ教室などの防犯の取組、安全な登下校、自転車の乗り方をはじめ交通安全の取組などを推進する。

○情報モラルの育成を進めるため、学校独自に策定した「タブレット活用ルール」に基づく指導を徹底するとともに、ルールの充実を図りつつ、より児童の実態に即した指導を進める。

(5) 特別支援教育の推進

○個に応じた指導の充実を推進するため、配慮を要する児童が困難を克服し、通常の学級での生活が安定したものになることをめざし、校内委員会（不適応対策委員会）の実施方法の改善・充実を図り、個別の計画をもとに、より組織的、計画的な支援を展開する。また、エンカレッジルームの活用、巡回指導の活用、スクールカウンセラーや特別支援教室専門員、日本語指導員や介助員などの多様な人材のより組織的、効果的な活用や支援機関との連携強化を図る。

○児童の自立と社会参加、共生をめざし交流・共同学習の推進し、特別活動、学校行事に加え、特別支援学級の一人一人の実態に応じ図工などの教科学習においても通常の学級との交流・共同学習を推進する。また、教職員の連携・協働を一層推進し、すべての子どもをすべての教職員で見守り育てる体制を強化する。特別支援学校に在籍し、本校に副籍を置く児童との間接的、直接的な多様な交流活動を推進する。

○障害理解にかかわる教育を推進するため、オリンピック・パラリンピック教育の成果を踏まえ、「学校2020レガシー」として、パラスポーツの体験や特別支援学級の児童との交流などを中心に、障害者理解にかかわる取組を推進する。

(6) 家庭・地域との連携推進

○地域の教育力を活用して地域を愛する心を育むため、海苔すき体験をはじめ江戸川、葛西にかかわる学習を積極的に推進する。また、スポーツや芸術にかかわる分野を中心に多彩なゲストティチャーを招聘するなどして、児童の興味・関心・意欲を高める教育活動を展開する。

PTAやおやじの会、地域関係団体との連携を強化し、さまざまな支援を受けたり、協働を推進したりして教育活動の一層の充実を図る。

○児童の成長に大きな影響を及ぼす家庭の教育機能の充実・向上をめざし、教育活動の実際や家庭での取組のポイントなどを学校ホームページで積極的に発信したり、保護者会を通して具体的に説明したりする。また、入学期の保護者を対象とした保護者会の充実などを推進する。

(7) その他

○教科横断的な学習の展開や人的・物的資源の効果的活用を一層推進する。また、教育活動の実際を積極的に発信するとともに、学校関係者評価を通して家庭・地域の率直な声を受け止め、学校としての振り返りを充実させて、教育課程の改善・充実に努める。

○より質の高い教育活動の実現をめざし、スクールサポートスタッフ、学年アシスタント、校内別室指導員をはじめ、多様なスタッフの効果的な活用を進めていく。

○校内環境の整備、美化に努め、教育環境の充実を図る。また、児童数、学級数の増加を踏まえ、学びの場の確保・工夫、より効率的で効果的な教育活動の展開などを推進していく。

第2表の2（特別支援学級）

2 指導の重点

(1) 確かな学力の育成

○基礎学力の向上を図るため、

個別指導計画に基づき、一人一人に応じたきめ細かな指導、個別の課題や実態を踏まえた指導を徹底し、一人一人の児童の基礎・基本を確実に定着させるとともに、自立に向けて必要なより多くの知識、技能、態度、習慣などを身に付けさせ、自己肯定感を高め、自分から進んで取り組む態度を育みつつ、将来にわたって、自分の力を発揮することができるようにする。

国語、算数などを中心に、一人一人の実態、特性に応じてグループを構成し習熟度別指導を展開するなど指導体制・指導方法などを工夫・充実する。

ICT機器、1人1台端末の基本操作の習得にかかわる学習を計画的に推進する。また、すべての教科・領域において1人1台端末を積極的に活用し、記録する、調べる、まとめる、表現するなどの活動の充実を図る。

○主体的・対話的で深い学び、個別最適な学びと協働的な学びの実現をめざし、自分の学習を振り返って次の課題につなげる学び、友だちとかかわりながら考えたり、表現したりする学びの充実をめざす。また、成就感、達成感を味わわせ、自己肯定感を高める指導を積極的に進める。

A L Tと連携し、外国語教育の充実を進め、英語でのコミュニケーションに対する興味・関心を高める。

○家庭との連携を強化するため、授業への臨み方、学習の約束などを児童、保護者に明示してないに説明するとともに、その取組状況を発信したり、家庭の協力をはたらきかけたりしながら、学習習慣の定着を図る。

○児童の自己肯定感や主体性、学びへの意欲の向上を図るため、教科横断的な視点で指導内容を構成したり、より生活との関係を明確にしたりして、学習活動を展開する。また、日々の学習の成果を他の児童や保護者に発表する機会の設定などを進めていく。

(2) 健やかな身体の育成

○主体的な体力向上を促進するため、目標をもって体力調査に臨ませるとともに、児童が自分の体力の状況を知り、自ら力を高めようとする意欲の向上を図る。また、体育の授業において真に運動に取り組んでいる時間の比重を高めることに努める。さらに、毎週30分間の全校運動遊びを実施するとともに、毎週のマラソン活動や長縄へのチャレンジなど、目標に向けてスモールステップで取り組んでいくことができるよう支え、励まし、基礎体力の向上を図るとともに、運動への意欲を高める。

○保健指導、食育を推進するため、身体計測などの機会を活用した保健指導、体育科保健分野での指導、歯の健康にかかわる取組の充実などを通して、自らの身体、健康に関心を持ち、健康な生活を実現していこうとする実践的な態度を育てる。

多彩な給食の提供、マナー給食の実施など給食の時間を中心として食育を推進し、食に関する関心を高め、豊かな食生活を実現していこうとする態度を養う。またアレルギー事故の防止を徹底する。

(3) 豊かな心の育成

○自主的・主体的な姿勢の育成をめざし、委員会活動や学級での学年、クラスを越えた交流活動や係活動や当番活動を充実させるとともに、異学年交流を推進する。

○自然や文化に触れる体験活動の充実、身辺自立の定着、困難に対処できる力の育成、自分の力で生活し、たくましく生きていくことのできる力の育成をめざし、4年で日光での特別支援学級の連合宿泊行事、5年で磐梯へのウインタースクール、6年で日光移動教室を実施する。また、栽培や観察の活動を充実するとともに、江戸川、葛西にかかわる多様なゲストティーチャーを招いた活動を展開し、ふるさとを愛する心を育む。

○読書活動を充実するため、学校図書館での活動の充実、PTAボランティアや関係団体による本に親しむ活動などを実施していく。

○道徳教育の充実を図るため、道徳授業地区公開講座の実施や特別の教科 道徳の授業の充実などを進め、自分のことも相手のことも大切にす気持ち、実践力を高める。また、家庭や地域などとの連携を図りつつ、すべての教育活動において、江戸川区子どもの権利条約を踏まえ、多様な文化、生き方、価値観などを認め、尊重し、さまざまな人と共に生きる態度、心を培う。また、困ったと

きには困ったと言える環境の充実を進める。

- 音楽に対する感性を育むとともに、豊かな情操を育成するため、音楽会を実施する。
- 特別支援学級連合展覧会に向けての作品制作などを通して、豊かな感性、創造力などを育むとともに、通常の学級の児童へも発表の機会を設けて、交流学习を展開する。
- 卒業後を視野に入れた小中9年間を見通した指導、中学校での体験など、中学校との連携を推進し、児童が円滑に進学できるようにする。

(4) 健全育成の推進

- 基本的な生活習慣を身に付け、自律できる児童の育成を推進するため、「二葛西小の約束」を児童、保護者とともにていねいに確認したり、友だちと仲良く楽しく過ごすための工夫を学んだりするなどしていく。また、自分の言動を振り返ったり、気持ちを切り替えたりする場面を意図的に設定していく。
- 不登校、いじめなどの未然防止、対応の徹底を図るため、不登校対策委員会、いじめ対策委員会の取組の充実などを図り、安心な学校・学級生活の充実、いじめ防止、児童虐待防止などを推進する。
- 防災、防犯などにかかわる教育を推進し、自分の身体や命を自分で守ることができる力の育成をめざし、さまざまな災害の発生を想定した多様な訓練を中心とした防災教育、警察などと連携した薬物乱用防止教室やセーフティ教室などの防犯の取組、安全な登下校、自転車の乗り方をはじめ交通安全の取組などを推進する。
- 情報モラルの育成を進めるため、学校独自に策定した「タブレット活用ルール」に基づく指導を徹底するとともに、ルールの充実を図りつつ、より児童の実態に即した指導を進める。

(5) 特別支援教育の推進

- すべての児童の自立と社会参加、共生をめざし、通常の学級の児童と合同での運動会、音楽会、宿泊学習、遠足、生活科・社会科見学などを実施したり、クラブ活動、委員会活動などを進めたりする。また、一人一人の実態に応じ、通常の学級の一部の授業を一緒に行ったり、教職員の連携・協働を一層推進したりして、すべての子どもをすべての教職員で見守り育てる体制を強化する。
- これまで推進してきたオリンピック・パラリンピック教育の成果を踏まえ、「学校2020レガシー」として、パラスポーツの体験などを実施する。

(6) 家庭・地域との連携推進

- 地域の教育力を活用して地域を愛する心を育むため、海苔すき体験、小松菜にかかわる学習をはじめ江戸川、葛西にかかわる学習を積極的に推進する。また、スポーツや芸術にかかわる分野を中心に多彩なゲストティチャーを招聘するなどして、児童の興味・関心・意欲を高める教育活動を展開する。
PTAやおやじの会、地域関係団体との連携を強化し、さまざまな支援を受けたり、協働を推進したりして教育活動の一層の充実を図る。
- 児童の成長に大きな影響を及ぼす家庭の教育機能の充実・向上をめざし、教育活動の実際や家庭での取組のポイントなどを学校ホームページで積極的に発信したり、送迎時や連絡帳などでの保護者との情報交換を充実させたり、保護者会を通して具体的に説明したりする。また、入学期の保護者を対象とした保護者会の充実などして保護者との「協働・共育」を推進する。

(7) その他

- 教科横断的な学習の展開や人的・物的資源の効果的活用を一層推進する。また、教育活動の実際を積極的に発信するとともに、学校関係者評価を通して家庭・地域の率直な声を受け止め、学校・学級としての振り返りを充実させて、教育課程の改善・充実に努める。
- 教育環境の整備、充実に努め、児童が意欲的、自発的に学んでいくことができるよう学習環境を整える。
- より質の高い教育活動の実現をめざし、講師、介助員、スクールサポートスタッフをはじめ、多様なスタッフの効果的な活用を進めていく。